

表 1.2-2 本評価調査の評価の枠組み（続き）

評価視点	評価項目	評価内容	情報入手手段	情報入手先
II. プロセス（続き）	計画過程の適切性 （続き）	(2) 上記の連携は効率的に実施されたか。（時間的な流れが適切であったか） (3) 我が国の実施した案件や他のドナーが実施した案件と重複がなかったか。 (4) 実施済みの案件から得られた教訓が次の案件の計画に生かされたか。	(2)、(3)、(4) 1) 擬似プログラムに係る資料 2) 擬似プログラムに係る外務省と大使館のやりとり記録（電報など） 3) 関係者への聞き取り 4) ボリビア政府の基礎生活分野関連省庁関係者への聞き取り調査 5) JICA の関連案件担当者への聞き取り	(2)、(3)、(4) 1)、2) ・外務省、JICA ホームページ ・外務省経済協力局 ・在ボリビア日本大使館 3) ・当時の経済協力局職員 ・当時の大使館員 4) 関連省庁職員 5) 当時の JICA 職員
	実施の妥当性	(1)無償資金協力、草の根無償資金協力 外務省本省、在外大使館の間の連携が妥当であったか。 実施中もボリビア政府、他のドナーとの調整、政策対話を継続し、案件の効果を向上させるように努めたか。（モニタリング・中間評価も含む） (2) プロジェクト方式技術協力等 個別案件の実施あたり、外務省は JICA に適切なアドバイスや支援を施したか。 実施中もボリビア政府、他のドナーとの調整、政策対話を継続し、案件の効果を向上させるように JICA を支援したか。	(1)、(2) 1) 擬似プログラムに係る資料 2) 擬似プログラムに係る外務省と大使館のやりとり記録（電報など） 3) 他ドナーの経済協力関連年次報告書 4) ボリビア政府の基礎生活分野協力関係者への聞き取り 5) JICA の関連案件担当者への聞き取り 6) 他ドナー ODA 関係者への聞き取り	(1)、(2) 1)、2) ・外務省経済協力局 ・大使館 3) 他ドナーホームページ 4)、5) ・当時の経済協力局職員 ・当時の大使館員 ・当時の JICA 職員 6) 当時の他ドナー ODA 関係者
	実施の効率性	(1)無償資金協力、草の根無償資金協力 上記の連携、調整、政策対話などが効率的に実施されたか。 (2) プロジェクト方式技術協力等 上記の支援、アドバイスの提供、調整、政策対話などが効率的に実施されたか。	1) 擬似プログラムに係る資料 2) 擬似プログラムに係る外務省と大使館のやりとり記録（電報など） 3) 他ドナーの経済協力関連年次報告書 4) ボリビア政府の基礎生活分野協力関係者への聞き取り 5) JICA の関連案件担当者への聞き取り 6) 他ドナー ODA 関係者への聞き取り	1)、2) ・外務省経済協力局 ・大使館 3) 他ドナーのホームページ 4)、5) ・当時の経済協力局職員 ・当時の大使館員 ・当時の JICA 職員 6) 当時の他ドナー ODA 関係者